

親水施設改修工事 今後の予定について

II. 湿地のエリア (仮)

●修正設計実施

- ・通年水位を確保するため、流出部に堰を設ける
- ・魚道設置の検討

●整備内容

- ・環境を多様化する整備 (草地と水路の間に湿地環境の創出)
- ・インクルーシブな親水空間の整備 (園路、ベンチなど)
- ・プログラム利用のための施設整備 (休憩場所、倉庫など)
- ・幅広い受け入れのための駐車場、駐輪場の整備

先行発注

I. 池のエリア (仮)

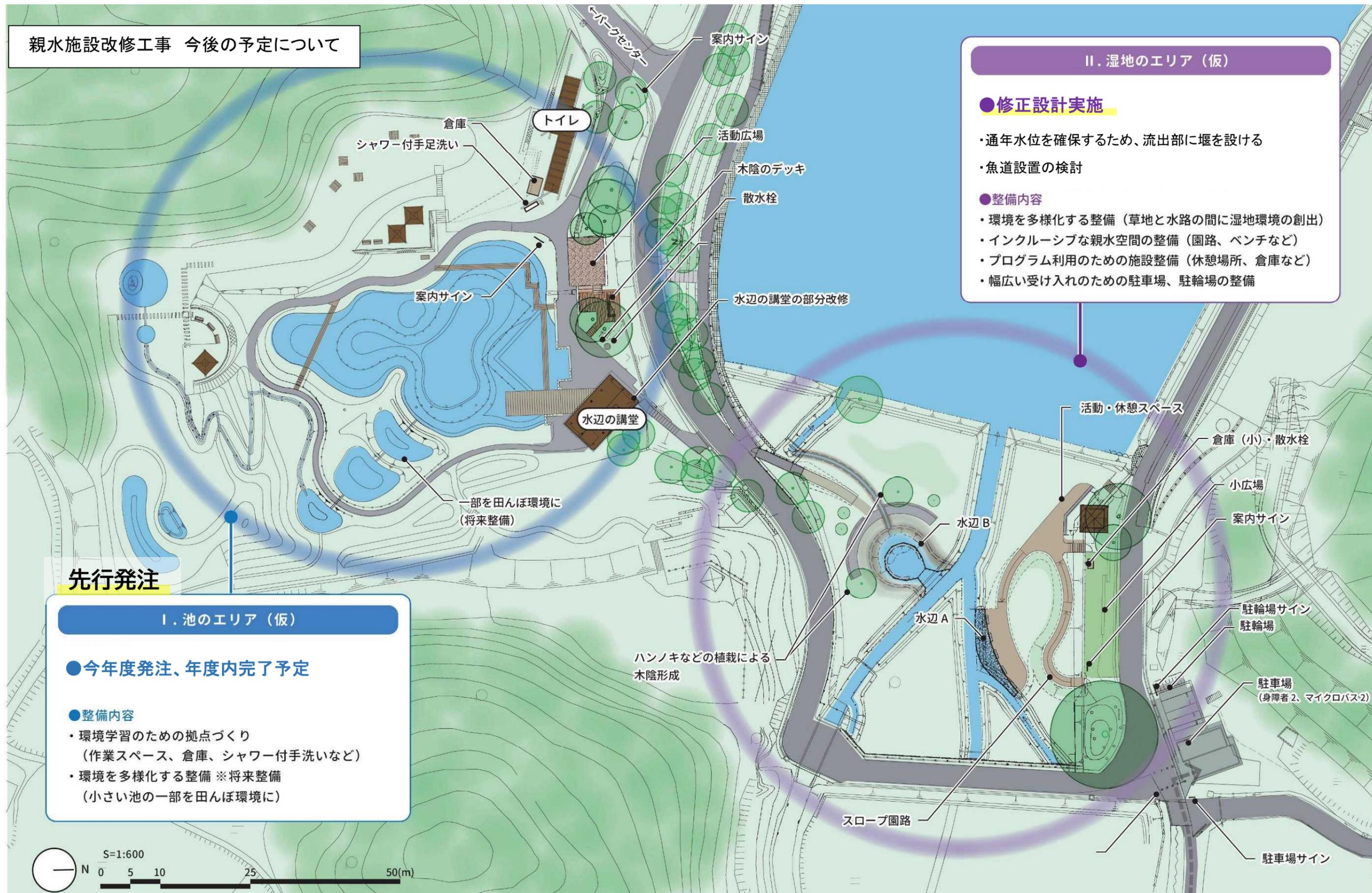
●今年度発注、年度内完了予定

●整備内容

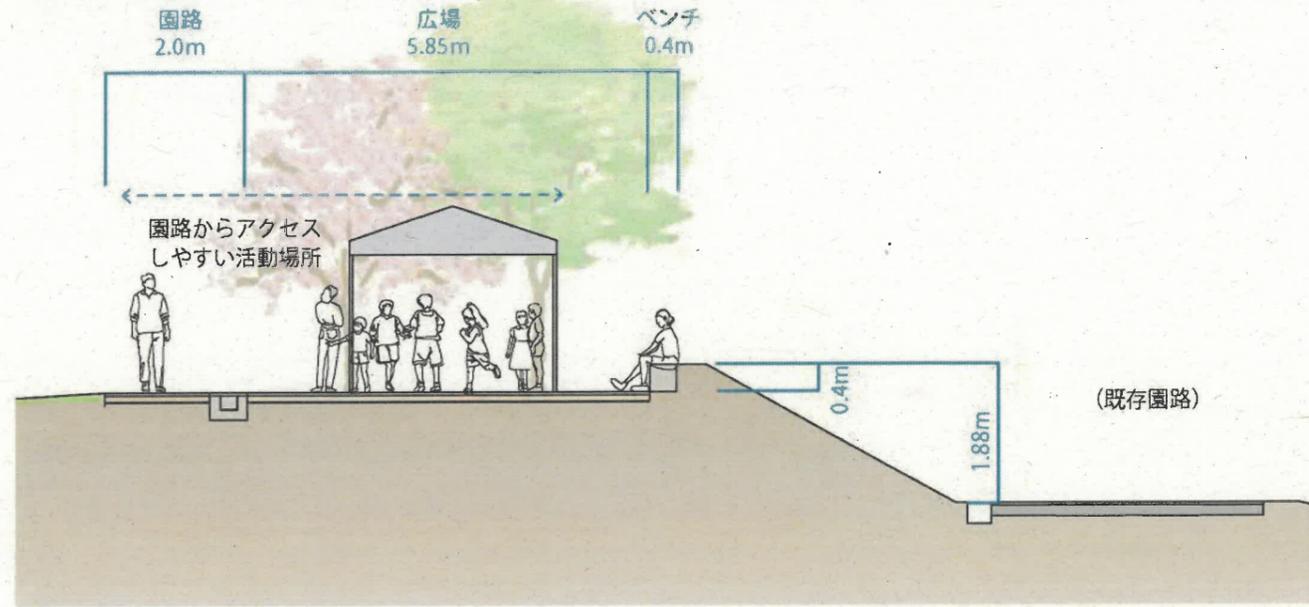
- ・環境学習のための拠点づくり (作業スペース、倉庫、シャワー付手洗いなど)
- ・環境を多様化する整備 ※将来整備 (小さい池の一部を田んぼ環境に)

ハンノキなどの植栽による木陰形成

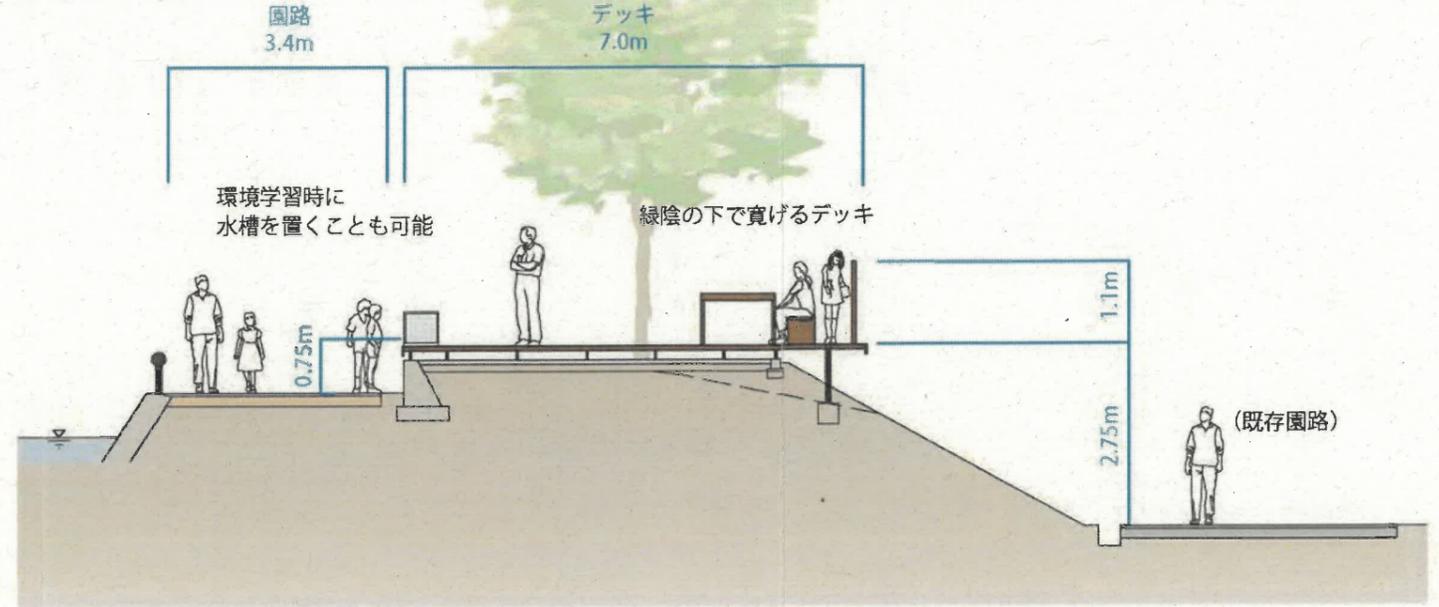
一部を田んぼ環境に (将来整備)



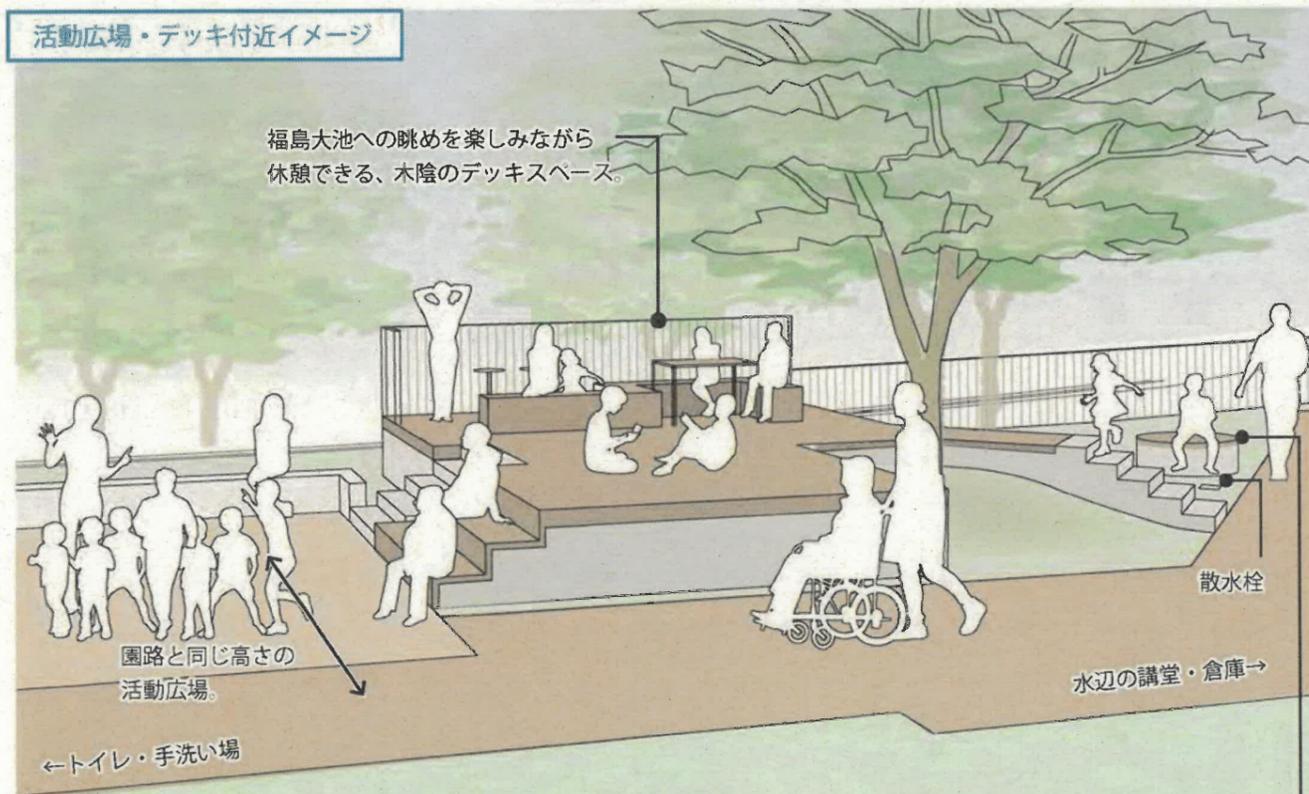
■A-A' 断面図



■B-B' 断面図



活動広場・デッキ付近イメージ

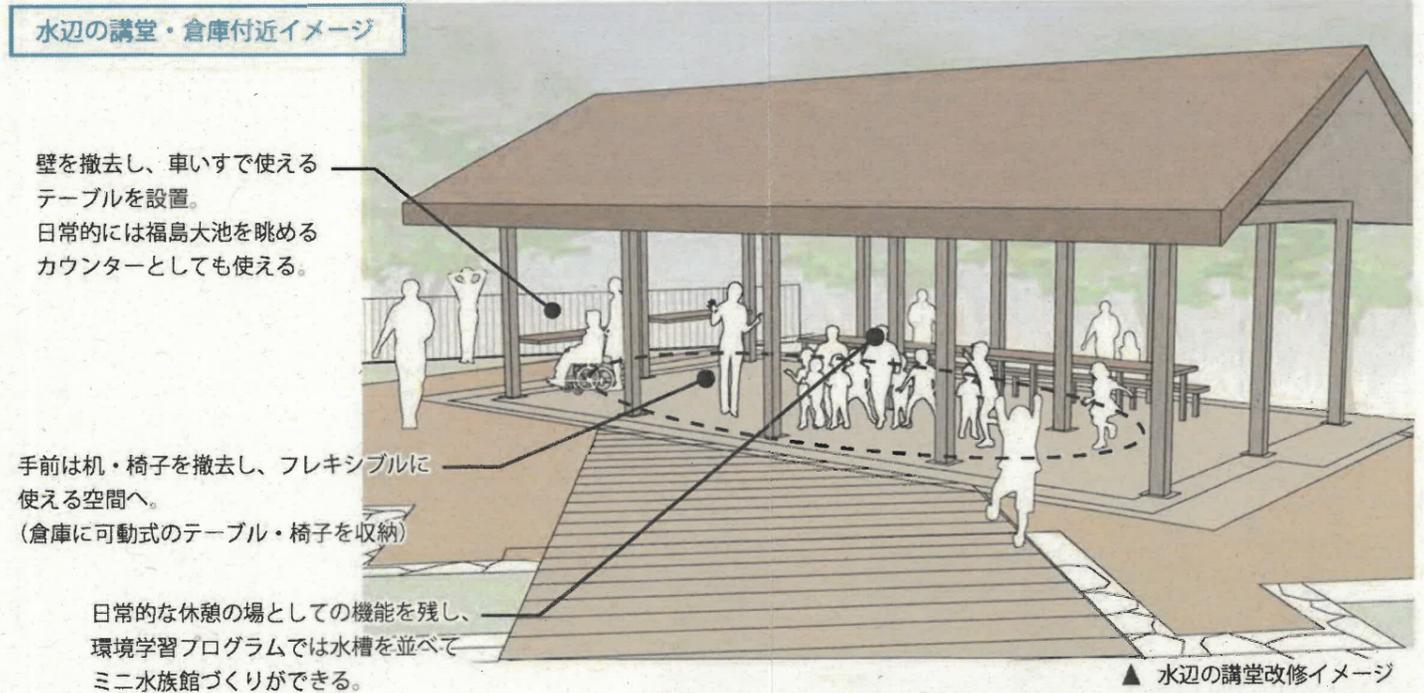


▲ 環境学習での活用イメージ



▲ 井戸跡活用イメージ (屋根は撤去)

水辺の講堂・倉庫付近イメージ

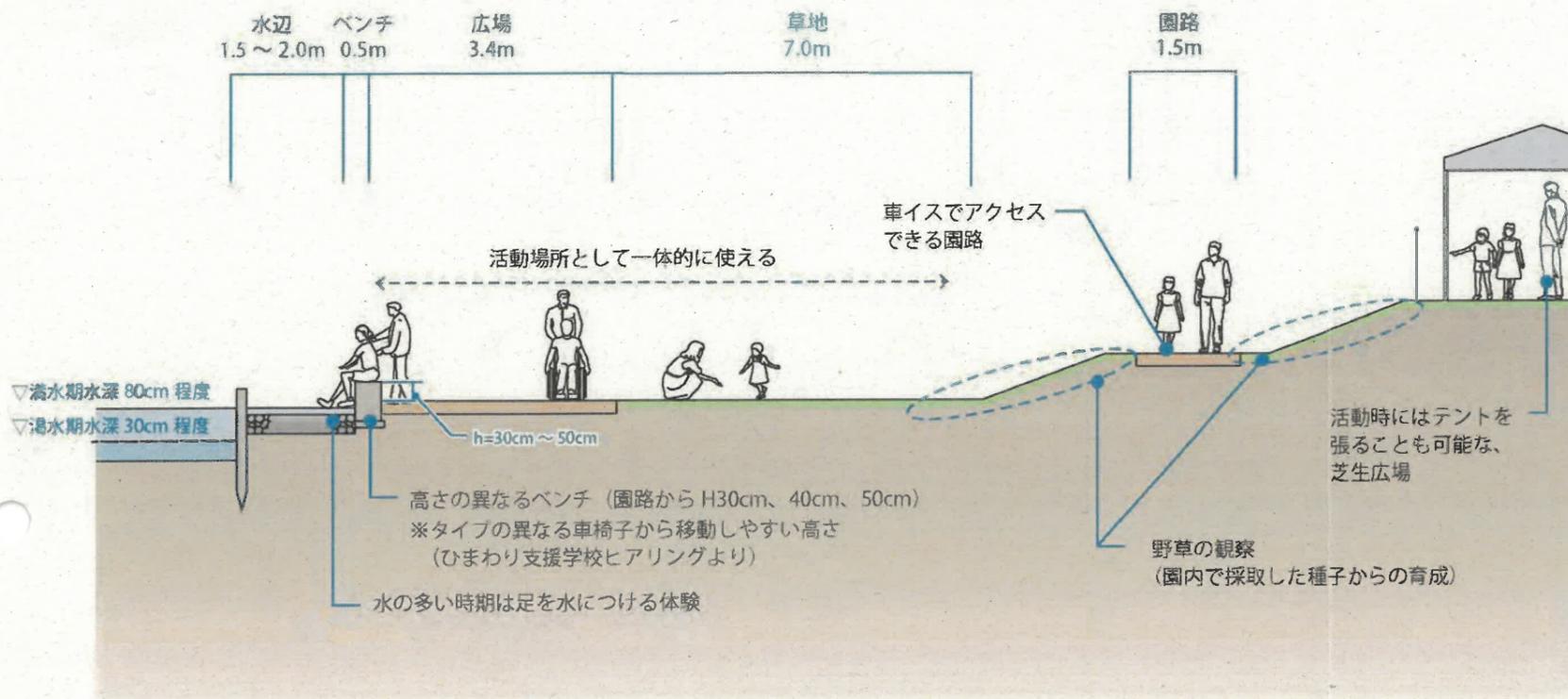


▲ 環境学習での活用イメージ

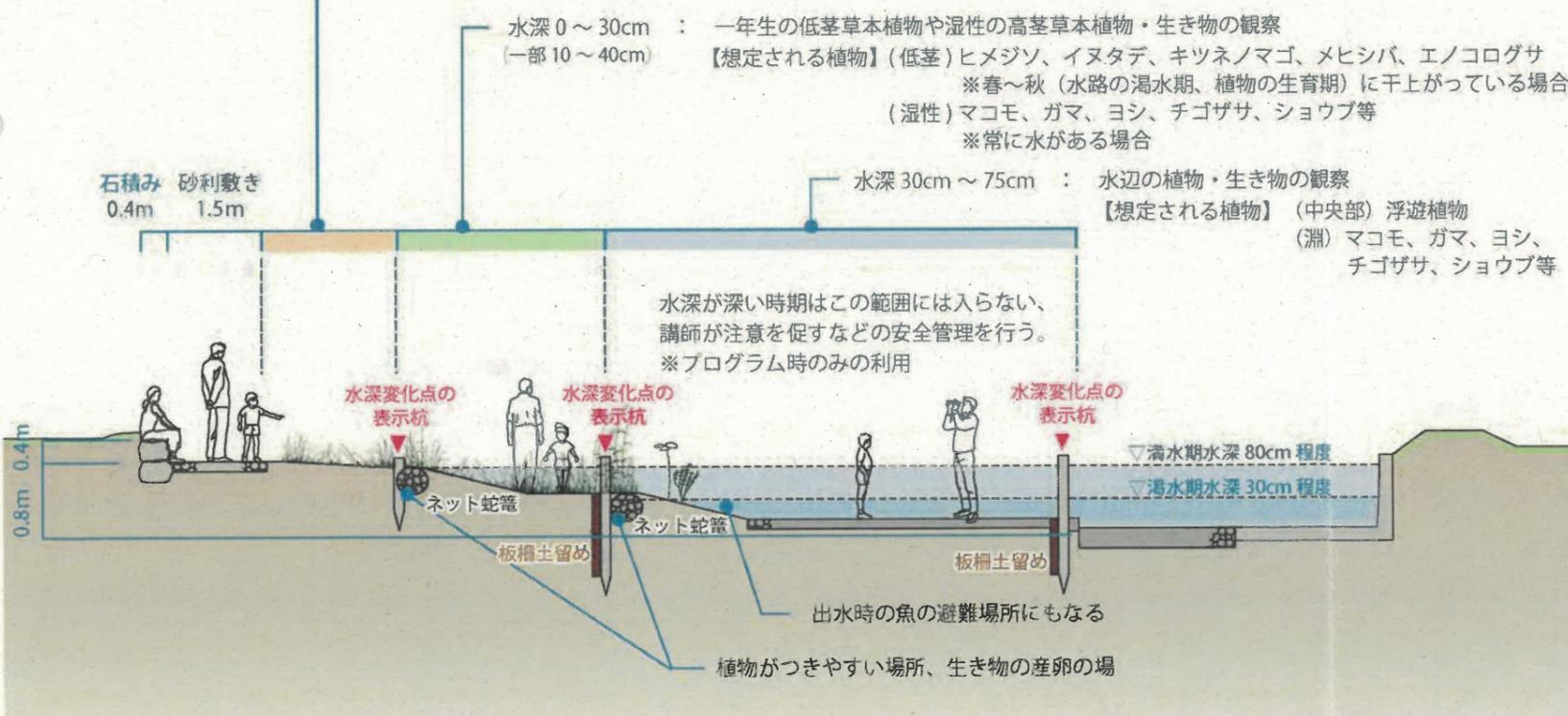


▲ 倉庫・壁面サインイメージ

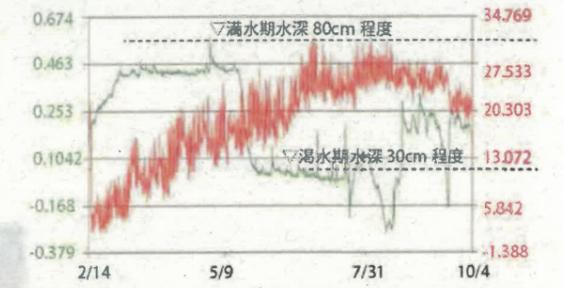
■C-C' 断面図



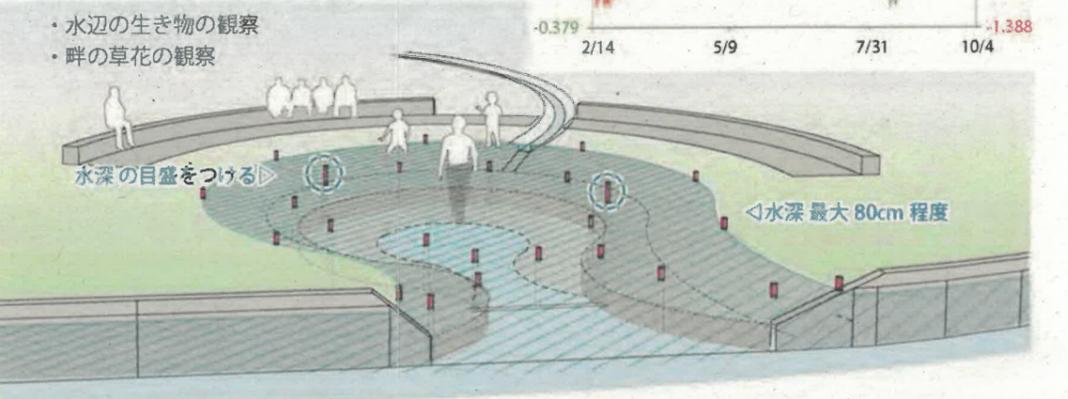
■D-D' 断面図



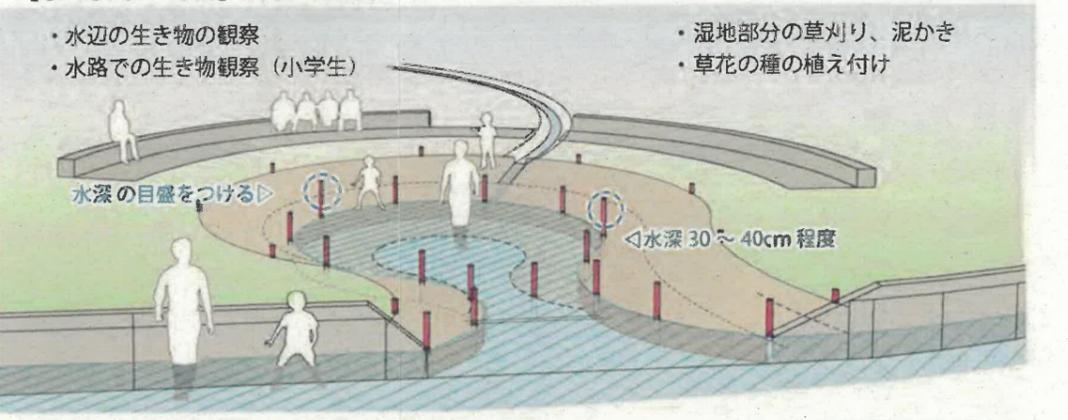
水位変化を踏まえた水辺Bの活用イメージ



【水の多い時期】10月~5月



【水の少ない時期】6月~10月

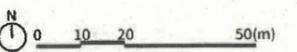


将来的な環境目標イメージ (案)



- ①水辺の草原
- ②畔の草地
- ③チガヤ草原
- ④野の花(七草)の咲く草地
- ⑤オギ草原
- ⑥ハンノキの下の草原

※調査結果などから現状を踏まえた想定。今後の活動の中で変化を観察しながら環境を育成していく。



ありまふじ里守の会 活動報告

有馬富士公園コーディネーター 遠藤

1. 定例活動

- ・毎月3回の活動。第1日曜はオープンデーおよび定例ミーティング、第2・4水曜は通常の里山整備。通常の里山整備に加え、ササ刈り試験区のササ刈り、有馬高校のありまふじ公開セミナーの授業受け入れなどを実施した。
- ・新たなメンバーが加入し、現在16名に規模拡大。活動日には平均して半数ほどが参加。
- ・里守の会の紹介およびオープンデーの募集チラシを作成。公園内のほか、北摂里山博物館を通して関係各所に配架をおこなった。またインスタを開設し、活動の様子を発信している。



(左から) 里山整備の様子、有馬高校の授業受け入れ、里守の会のインスタ

2. オープンデーの実施

- ・昨年度の試行を踏まえて今年度より毎月第1日曜日にオープンデーを実施し、メンバーでなくても誰でも気軽に里山に触れられる機会をつくっている。
- ・毎回1、2組ほどの参加があり、オープンデーの参加を経て加入したメンバーもみられる。
- ・6月には緑の少年団総勢50名ほどを受け入れ、里山散策と里山整備体験をおこなった。



(左から) オープンデー参加者による間伐体験、緑の少年団の受け入れ

3. 今後の予定

- ・11月3日(日・祝)にさんだまち博のイベントとして、「焚き火 de 飾り炭&ほかほか焼き芋づくり!」を実施する。現在7組のお申し込みあり。

有馬富士公園「棚田・里山景観保全エリア」整備実施箇所の追跡調査結果報告

(株)里と水辺研究所

1. これまでの経緯

有馬富士公園の「棚田・里山景観保全エリア」では、かつての良好な二次的自然をよみがえらせ、美しい農村風景を創出することを目指している。その趣旨に基づき、令和2年2月、かつての里山の姿である夏緑低林へ転換することを目的として、棚田の背後の里山林において試験伐採を実施した。また、ネザサが密生している棚田の法面についても里地の景観を再生するために刈り払いを実施した（整備実施箇所は右図参照）。

また、整備後の変化を把握するために、整備箇所の植生に関するモニタリング調査を継続的に実施している。



図 「棚田・里山景観保全エリア」整備実施箇所

2. 令和6年度モニタリング調査結果

- 里山林
 - ・ 100㎡あたり 53.5種の植物を確認（2地点平均、昨年度より3.5種増加）
 - ・ 新たに芽生えたコナラは、最大で第1低木層に達していた（樹高約4m）。
 - ・ コナラの萌芽再生率は27%、萌芽個体の樹高は最大5.3mに達していた。
- ネザサ群落
 - ・ 5㎡あたり 15.5種の植物を確認（調査開始以来最多）。

令和6年8月7日に、植生に関するモニタリング調査を実施した。調査結果の概要は下表のとおりである。また、詳細については別添資料のとおりである。

表 モニタリング調査結果の概要

整備箇所	調査結果の概要
里山林 (コナラ林)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出現種数は100㎡あたり53.5種類(2地点平均)で、昨年度より3.5種増加した。 ・ 夏緑樹や常緑樹は増加し、多年生草本や先駆種は減少した。 ・ 草本層および第二低木層の被度の合計は80%に達し、ネザサが優占していた。 ・ 伐採後、新たに芽生えたコナラは第1低木に達していた。 ・ 第2低木層のコナラの被度は13~31%であった。 ・ コナラの萌芽再生率は27%であり、萌芽個体の樹高は最大5.3mに達していた。
棚田法面 (ネザサ群落)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出現種数は5㎡あたり15.5種類で、試験開始後、最多であった。 ・ 令和6年6月にネザサの刈り払いが実施されたこともあり、群落高はこれまでで最小の約0.49mであった。 ・ 種数が増加した要因は、群落高が低くなり、日あたりがよくなったことと考えられる。

3. 伐採試験後 5 年目の評価

(1) 里山林（コナラ林）

・皆伐による里山林の再生は可能。

大径木が多い里山放置林については、萌芽再生による更新には課題が残るものの、実生の発芽によるコナラの生育は良好であり、これらを育成することで、里山林の再生は可能であることが示された。

(2) 棚田法面（ネザサ群落）

・刈り払いの継続は種多様性の再生、保全に効果あり。

刈り払いを継続することで、年による増減はあるものの、全体的に、平均群落高は低下している。また、平均群落高が低い年度は、植物の種数が多くなっている。以上より、刈り払いの継続は、種多様性の再生に効果があるといえる。

4. 今後の方針（案）

(1) 里山林（コナラ林）

- ・残すコナラ稚樹の選定およびマーキングと、残す個体以外の伐採。
- ・常緑樹（ソヨゴなど）、先駆種（アカメガシワ、ヌルデなど）の除伐。
- ・伐採作業時の夏緑樹（コバノミツバツツジなど）の保全。
- ・植生高が 10m に達した段階で、2 回目の伐採を検討。

今後、コナラの確実な育成を目指すには、残す稚樹を選定し、誤伐されることのないようマーキングを行う。第 2 低木層のコナラの被度は 13～31% であるが、粗密があるため、コナラが密になっている箇所では残す個体以外は伐採する。また、残すコナラの成長を妨げないように、目標林構成種以外の常緑樹（ソヨゴなど）、先駆種（アカメガシワ、ヌルデなど）は除伐する。一方、多様性保全の観点から、刈り取り、除伐の際には、育成したい夏緑樹（コバノミツバツツジ、コックバネウツギなど）を伐採しないよう配慮する。

今後について、当初の目的であるかつての里山の姿である夏緑低林へ転換するためには、植生高が 10m 程度に達した段階で、再び皆伐が必要となる。今後もモニタリング調査を継続し、10m に達するまでの期間、その間の管理方法などを整理して、有馬富士公園の「棚田・里山景観保全エリア」における里山林の再生および維持管理手法を整理する。

(2) 棚田法面（ネザサ群落）

・年 2 回程度の刈り払いの継続。

棚田法面の種多様性の再生、保全のために、年 2 回程度の刈り払いを継続する。

有馬富士公園「棚田・里山景観保全エリア」 里山林の伐採試験後の植生調査結果 -2024年-

有馬富士公園の棚田・里山景観保全エリアでは、2019年度より、かつての里山林*の再生を目的とした「伐採試験」に取り組んでいます。また、伐採試験の効果を検証するため、伐採前の2019年および伐採後の2020年～2024年に植生調査を継続しています。

※薪や炭の原木を得るために、定期的に伐採され、高くても10m程度の背丈の低い林

植生調査結果の概要は以下のとおりです。

<種数の変遷(図1)>

- 100㎡あたりの植物の種数は、伐採後に増加し、2021年度には56.5種に達した。
- その後やや減少したが、2024年度は53.5種に微増。
- 減少していたのは一年草・越年草、先駆種など。
- 時間の経過とともに明るい立地に生育する植物が減少する一方、2024年度には、夏緑樹や常緑樹が増加していた。

<植被率の変遷(図2)>

- 草本層と第二低木層の合計植被率は、伐採前に約40%であったが、2024年は80%を超えるまでに増加した。
- 伐採後に芽生えたコナラの植被率は13～31%程度、高さは2m程度に達した。また、個体数も多い。

今後も植生調査を継続し、里山林として望ましい種類組成となっていくのかどうかの検証や、今後の管理方法などを検討していきます。

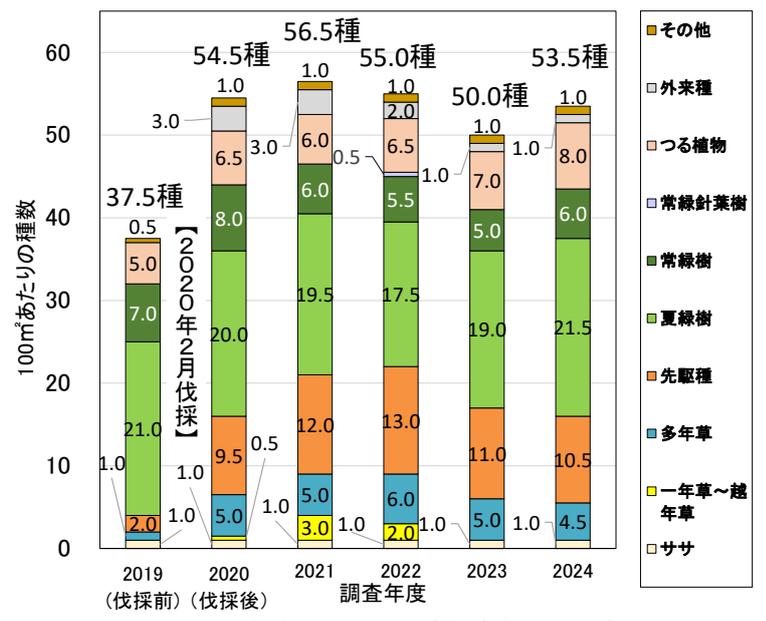


図1 生活形別種数 (2地点の平均)

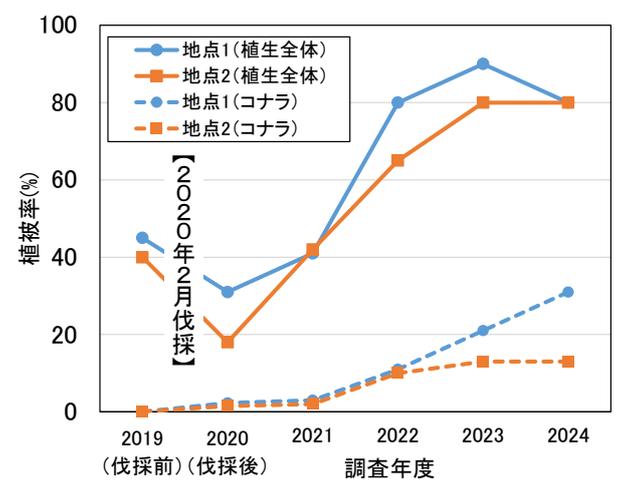


図2 草本層+第二低木層の植被率*の変遷
※植物が覆っている面積の割合

植生調査実施地点の概況



2019年度

2020年度

2022年度

2024年度

有馬富士公園「棚田・里山景観保全エリア」 ササ刈り試験後の植生調査結果 -2024年-

有馬富士公園では、棚田・里山景観保全エリアの再生整備を進めています。これまで、棚田周辺の斜面にはササの仲間のネザサが繁茂し、容易に近づくことができず、ネザサ以外の植物がほとんど見られませんでした。そこで、2019年に植生調査を実施した上でネザサの刈り払いを行いました。その後、年1~2回の頻度で刈り払いを継続するとともに、刈り払いの効果を把握するために植生調査を継続してきました。

植生調査結果の概要は以下のとおりです。

<種数の変遷(図1)>

- ・刈り払い前の植物の種数は、5㎡あたり7.5種。
- ・刈り払い1年目(2020年度)、15種に増加し、その後、増減を繰り返している。
- ・最も種数が多かったのは今年度で15.5種に達した。
- ・生育形別にみると、一年草~越年草が昨年度よりも4種増加。

<平均群落高の変遷(図2)>

- ・刈り払い前の平均群落高は2.75m。
- ・刈り払いを継続することで、平均群落高は低下し、2024年度はこれまでの最小である0.49m。

全体的にみると、群落高が高いと種数が少なくなるといった関係がありそうです。

□ササ □一年草~越年草 □多年草 □先駆種 □つる植物 □外来種 □夏緑樹

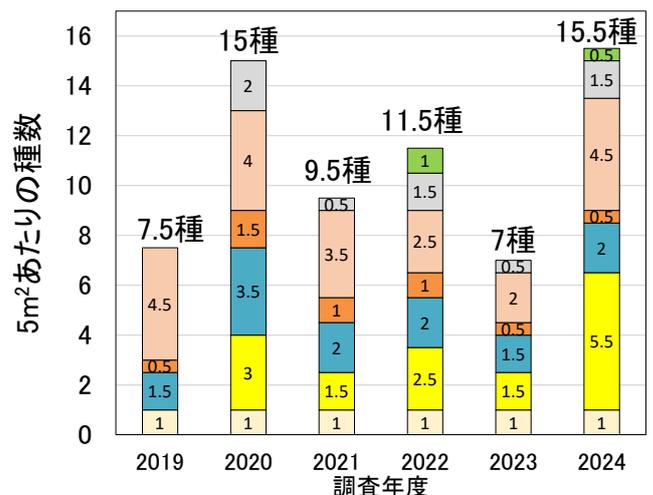


図1 生育形別の種数(2地点平均)の変遷

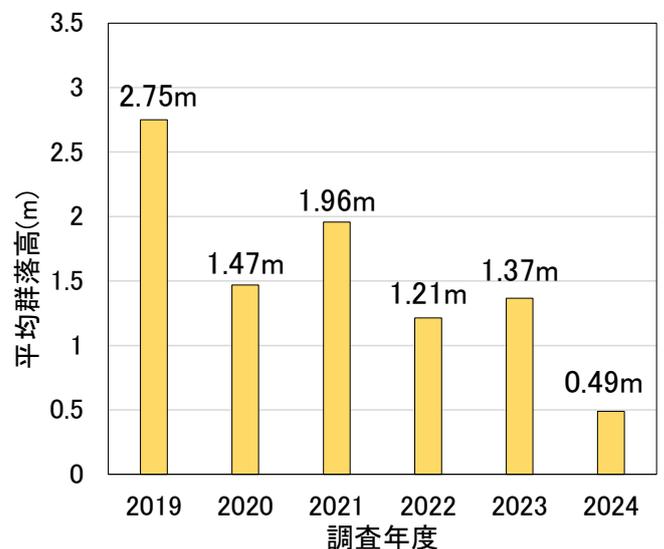


図2 平均群落高(ネザサの高さ)の変遷

地点1



地点2



「クラシックカーピクニック in 有馬富士公園」の開催結果について

- 1 日時 令和6年3月17日（日）10時～14時
- 2 会場 臨時駐車場
- 3 主催 クラシックカーピクニック in 有馬富士公園 楽しませ隊
共催 有馬富士公園管理事務所、子育て支援サークルてとて
- 4 参加者数 300人（エントリー車の来場者及び一般来場者）
- 5 展示台数 52台（駐車スペース上限は80台）
- 6 当日の状況
12時頃から断続的に小雨が降りだし、プログラムを一部変更・中止した。
- 7 その他
 - ・開催終了後、主催者より当日の収益の一部（8,920円）を公園管理のため寄付する申し出があり、「かやぶき民家でいっぷく募金」に充て、公園維持管理の消耗品等に使用することとなった。
 - ・神戸新聞の取材があった。



クラシックカー展示



じゃんけん大会

「ARIFUJI WEEKENDERS 2024」の開催結果について

- 1 日時 令和6年5月18日（日）9時～20時
- 2 会場 休養ゾーン 大芝生広場
- 3 来場者数 4,800人（うちスタッフ700人）
- 4 主催 株式会社 ONE
後援 兵庫県、三田市、三田市商工会、三田市観光協会、(公財)兵庫県園芸・公園協会
協賛 チケットぴあ、楽天モバイル株式会社、三菱マテリアルレーディング株式会社、STUDIO FURISODE NANAIRO、ブランドハウス株式会社、狩場一酒造
- 5 当日の状況
 - ・12組の出演アーティストにより2ステージで交互に演奏が繰り広げられた。
 - ・音楽演奏に加え、物品・フード販売50店以上の出店、ワークショップ、体験企画など様々な催しが盛り込まれた。
 - ・終始晴天が続き天候に恵まれた。
- 6 その他
終演後は、近くのキャンプ場で音楽演奏とともに本格的なオートキャンプやアウトドア活動体験を楽しむ後夜祭を開催し、周遊型観光が目指された。



立地を生かした観覧



ステージのクライマックス

「有馬富士ファミリーアドベンチャー」の開催概要について

- 1 日時 令和6年10月12日(日)10時～16時30分
13日(日)9時～16時30分
- 2 会場 出合いの広場、かやぶき民家等
- 3 主催 関西学院大学アカデミックコンスプロジェクト「あ、みつけ！」
共催 有馬富士公園管理事務所
後援 三田市、三田市教育委員会、三田市商工会
- 4 来場見込数 2日間計目標5,000人
- 5 企画内容

関西学院大学三田キャンパスの学生グループが、三田の新しい魅力を有馬富士公園の自然から引き出し、家族で参加できる手づくりゲームや体験企画などを通じて市内外の住民交流を盛んにするイベントを開催する。

関西学院大学アカデミックコンスプロジェクト「あ、みつけ！」
KOTOBUKI no YU

有馬富士ファミリーアドベンチャー

関西学院大学が子どもたちのために全力で企画・運営！

スタンプを3つ集めて豪華景品が当たる抽選会に参加しよう！

三田の謎解き王は誰？

謎解きゲーム

10/12(土)10時～16時30分
10/13(日)9時～16時30分

抽選会の景品は当日抽選で現金目録となります。

※抽選の景品は10時～17時
※抽選アプリは数量限定
※抽選料金は別途料金・現金支払い

チャレンジエリア

12日	13日
10時～16時	9時～16時
・本場クイズ ・チームフルバスケット ・チーム指スマ ・アクセサリー作り ・ミニ四駆	・絵算盤 ・バルーンチャレンジ ・〇〇名人チャレンジ ・100文字のチャレンジ ・焼き芋フユレ作り

お祭りゲーム

10/12(土)10時～17時
10/13(日)9時～17時

※ルール・説明動画は下のQRコードから

・景観で内回りコースを歩いて三田にまつわる謎を解くゲーム
・制限時間は1時間
・コース内でクイズは30個
・8個正解でスタンプ1つ獲得
・答え合わせは実行で行う
・制限時間を過ぎるとスタンプは獲得出来なくなる

※抽選料金は別途料金・現金支払い

共催 関西学院大学アカデミックコンスプロジェクト「あ、みつけ！」・「Make that change」・有馬富士公園管理事務所
後援 三田市、三田市教育委員会、三田市商工会

場所：有馬富士公園
日時：令和6年10月12日10時～17時、13日9時～17時（スケジュールは裏面のQRから）
※抽選料金は別途料金・現金支払い
※抽選アプリは数量限定
※抽選料金は別途料金・現金支払い
※この事業は、三田市学生のまちづくり活動補助金の交付を受けて実施しています。

イベント詳細
お申し込みは
こちら →

イベントチラシ